

## 平成28年度自己評価・学校関係者評価報告書

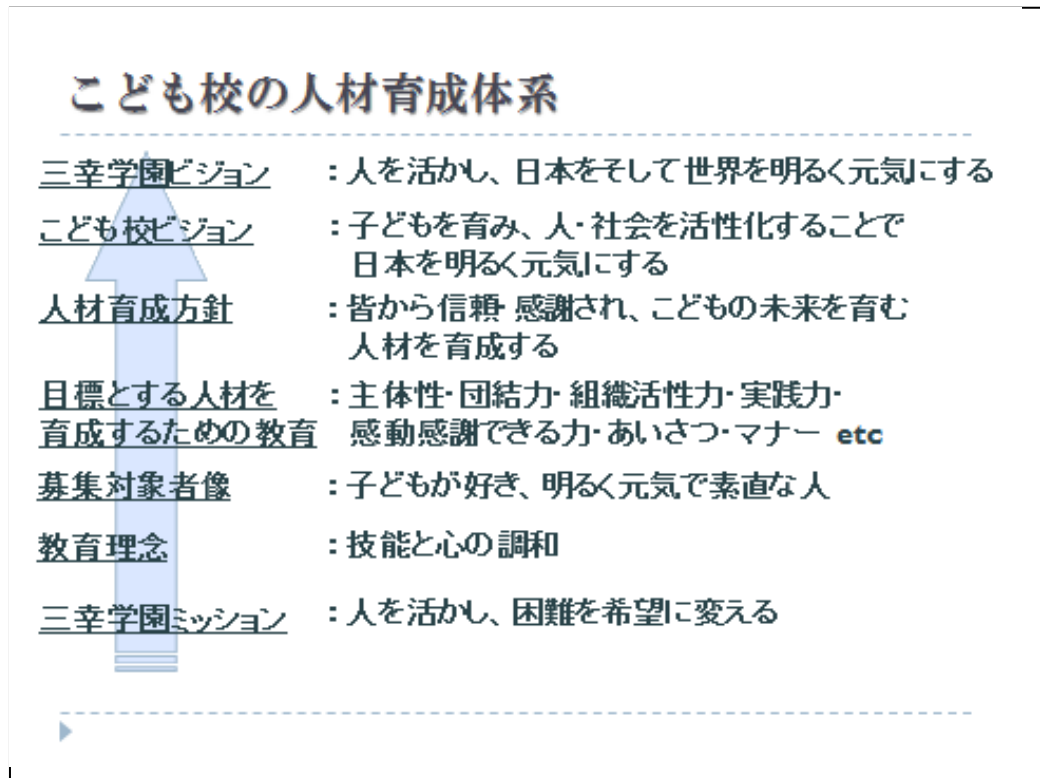
自己評価報告責任者：副校長 飯島 聡平

学校関係者 評価報告責任：学校関係者評価委員会長 大川 正裕

### 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、こども分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、こども分野として「皆から信頼・感謝され、こどもの未来を育む人材」を人材育成方針とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成輩出を進めている。



### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

#### 【教務】

- ・退学率低減 目標:8%以内 に対し7.2% (H27. 9. 2%)
- ・皆精勤率向上 目標:38%以上 に対し25.7% (H27. 26. 0%)

#### 【実習】

- ・挨拶と実践力の強化 園評価該当項目「優れている」取得率
- 挨拶 目標80%以上 に対し22.8%
- 実践力 目標80%以上 に対し27.0%

#### 【就職】

- ・年内内定率 目標87%以上 に対し 79%
- ・就職率 目標100% に対し 100%

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1). 教育理念・目標

【評価項目】	自己評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

##### ① 課題

- ・業界の動向や求める人材像を正確に捉えた学校教育への具体的な反映
- ・教科間の連携による実践力向上
- 五領域に基づく技術力向上と授業の実践

##### ② 今後の改善方策

- ・実習、就職園との積極的な関係構築及び情報の視覚化とタイムリーな提供
- ・教科間・学年間とのすり合わせ

##### ③ 特記事項

- ・教職員には、教育理念、ビジョン、ミッション、人材育成方針を体系化し、年3回の全体会議内での研修、ポスター掲示等により周知。
- ・あきらめない教育本の「教師としてあるべき8ヶ条」を朝礼で唱和。
- あきらめない本の中から教職員に対して学園の理念の浸透するようなお題で共有
- ・生徒への理念浸透向けに、入学直後のスタートアッププログラム研修や、教室内ポスター掲示し、HR 等での継続的な周知。
- ・オープンキャンパス保護者説明会や入学予定保護者会の実施。
- ・卒業研究の授業で「学内保育発表会」を実施し保育技術を披露、授業と行事との連動を図った。
- ・保育園との連携により各コースにて模擬授業の実施(月1回ペース)
- ・ボランティアサークルとして生徒が主体的に実践力を学べる機会を提供する

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・各コースの模擬授業において、現場の保育園の先生が生徒の様子に対してのアドバイスを、教員を通じて実施。コース担当教員によって差があるので、保育士は入らず、生徒が対応をしていけるように連権担当教員とコース担当教員が連携をとっていく
- ・各コースの模擬授業は実際の保育士と一緒にいう授業なので、身だしなみ等しっかり行き、保育の一つとして行っているという意識を生徒全員が持つべき。
- ・連携授業では3歳でできることと5歳でできることが違うので、東京こども保育園以外でも連携を検討。

## (2). 学校運営

【評価項目】	自己評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

## ① 課題

- ・卒業生採用
- ・事務採用における生徒の成績等管理の強化
- ・教育という組織に対する教職員の意識向上

## ② 今後の改善方策

- ・コンプライアンス体制については、少しずつ改善がされているが、教職員の意識を高める情報の提供が必要
- ・事務採用における情報管理及び組織の事務力向上と体制強化(人材育成と業務の見直し)

## ③ 特記事項

- ・運営組織は、理事会・評議員会を適切に開催。必要な審議を行い、議事録を作成している。
- ・学校運営は、学園組織図、学則、校務分掌表に示している。学則は必要に応じて学則変更を行い、校務分掌表は年度ごとに内容や構成員を見直している。
- ・採用は、関係法令により教員資格が定められている分野は、規定通りの人材を確保。他の分野においては必要要件を満たした人材を確保。
- ・情報管理においては管理体制を強化している(office365の活用及び事務職員の採用)

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・保育業界でも ICT 化を進めるよう東京都が補助金を出し推進している。今後タブレットの使い方などソフトを学べる授業を行っていく必要がある。

## (3). 教育活動

【評価項目】	自己評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

## ① 課題

- ・キャリア教育の充実
- ・キャリア教育に必要な職員のスキルを磨く研修の機会が不足している点
- ・職業を見据えた講師の授業力向上
- ・実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)の体系化

## ② 今後の改善方策

- ・在学期間中から就労に対する授業／ガイダンスを行う(業界の方からの意識づけ)
- ・授業アンケートを活用し、個々のスキル向上を図る
- ・カリキュラムを見直し、実践力向上のための情報共有や意見交換の場を作る

## ③ 特記事項

- ・併修先(姉妹校小田原短期大学)に合わせたカリキュラム変更の実施
- ・年3～4回の教員研修、授業見学月間の設置等、授業や指導力向上に向けて取り組んでいる。
- ・年2回の「授業の進め方アンケート」、「担任アンケート」を実施し、副校長(教務課長)や担任指導者よりフィードバックをし、改善につなげている。
- ・成績評価、単位認定は「学則」及び「教務ハンドブック」に従い、厳正に行っており、初回授業にて担当教員から授業計画とともに直接説明をしている。
- ・各教科よりシラバス作成を依頼し、教科間の連携を図りやすいように情報公開を行っている
- ・生徒からの授業アンケートを実施し、良い授業、面白い授業などを紹介し、成功事例を教員間で共有
- また授業アンケート項目以外でどのように感じているかを率直にヒアリングし、プラスの意見を共有する。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・授業では1人1人に声をかけ、それぞれにあった現場の話を盛り込めるよう声をかけると良い。
- ・生徒は集団よりも個を求めているので、個性を褒めていき、できない事よりもできることを褒めると良い。
- ・資格をとる授業を明確化する必要がある。現場で役立つ実践的な授業と資格取得に必要な授業をわかつたうえで授業に臨めるようにすると学びやすい。

## (4). 学修成果

【評価項目】	自己評価
就職率の向上が図られているか	3
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

## ① 課題

- ・退学率 11.4% (H27. 9.2%・H26. 12.6%・H25. 9.0%)
- ・個々の保育観にマッチングした就職サポート(エリア力)
- ・卒業生の就労状況(活躍や継続)の把握
- ・在学中におけるキャリア形成の指導及び社会人基礎力を含めた社会人育成

## ② 今後の改善方策

- ・退学事例報告会の定期的な実施や学生情報の迅速な共有
- ・スクールカウンセラーを含め、担任を中心とした教科担当教員の連携と声かけ
- ・卒業生に対するスキル講習会の提案(知識に特化した勉強会:例/障がい児・保健・栄養など)

## ③ 特記事項

- ・年内内定率 目標87%以上 に対し 79% ・ 就職率 目標100% に対し 100%
- ・エリア担当教員を配置し、担任とダブルで就職をサポートしている。
- ・エリア担当制により、卒業生や在校生の実習就職評価を直にヒアリングし、指導に反映している。
- ・退学防止については、入学前新入生保護者会を実施、学校生活のサポート協力体制を依頼。
- ・オリター会を月1で開催し、1年生担任も同席し、スタートアッププログラムから継続的に退学率等を検証し、適宜声かけをしてもらっている。

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・就職活動の園見学の際にこういう場面(園長先生、職員間、子ども達の笑顔など)を見て判断をするようにという指導を行うと良い。
- ・離職率防止のために、保育現場では業務量や精神的にも抱え込ませすぎないようにしているが、それを察知するのが難しい。気持ち面はコミュニケーションをとっていくのが一番大事なので、園長からも声をかけることや、主任から声をかけている。
- ・離職率が上がっているのは、学生時代は褒めて伸ばすような教育が多いので、現場に出て褒められることがなく辞めてしまうケースが多いのではないかと。保育現場でも園長先生は厳しいことを言わなくなってきたが、中堅の先生方とのギャップがあり、園でも意識統一していかないといけない。
- ・専門学校では離職率防止の為に、ケーススタディを増やし、対応できるようにしていく必要がある。
- ・自分の保育観を確立して就職する新人が多いが、現場に出てから保育観を身に付けて、園と合わせていくものという認識を専門学校のうちから持たせてほしい。
- ・就職希望の傾向として、小規模、新規を生徒が希望する(人間関係能力が不足と感じている生徒が多いため、関わる人数が少ない小規模園や、一緒にスタートで始められる新規園を希望)が、大規模でも人間関係は先生が多い分、違ったコミュニケーションをとることが出来るたりメリットが多いので、しっかり見方を伝えることが大事。

## (5). 学生支援

【評価項目】	自己評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

## ① 課題

- ・同窓会組織の強化
- ・キャリア教育・職業教育の取り組みの強化
- ・近年社会的背景からボランティア希望者が増加している。そのため、学校としてボランティア含め関係施設との連携や関係構築が求められる点

## ② 今後の改善方策

- ・同窓会の開催(11月3日開催)
- ・カウンセリングルームの効果検証(情報共有)
- ・「ももいく」サイトの活用、在学中からの登録促進
- ・就職ガイダンスにおける卒業生からのキャリア案内
- ・ボランティア活動斡旋のための文京区社会福祉協議会との連携

## ③ 特記事項

- ・専属のスクールカウンセラーを設置
- ・卒業生へのフォローを目的としたホームページ“Sanko Link”の浸透・活性化
- ・担任と、エリア担当の2名による TwoTeacher システムにて就職をサポート
- ・H28年度よりボランティアサークルを立ち上げ、学生が実践力を向上できる場を提供

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・新人1年目は書き物(連絡文書等)で困ったので、そのような授業があると良い。
- ・卒業生から学校に対してサポートを求めた時にはしてほしいが、学校側から園が知らないところでサポートをされるのは困るので、事前に教員から園にサポートしてよいかを聞いて実施する。

## (6). 教育環境

【評価項目】	自己評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	3

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

## ① 課題

- ・定期的な避難訓練、防災対策

## ② 今後の改善方策

- ・HR 等での伝達にとどまらず、保育園との防災対策の実施(防災訓練等含む)

## ③ 特記事項

- ・施設・設備は、平面図、備品台帳などの書類により管理できている。
- ・平成26年度より、全教室にプロジェクターとスクリーン、スピーカーを配置することにより、積極的にOA 機器を利用したの授業が出来る環境を作っている。
- ・学外実習は、各学科のカリキュラムに位置づけて実施しており、実習担当と実習教科担当により毎年基本方針と年間計画が見直されている。
- ・実習中は、エリア担当教員が定期的に実習先を訪問し、学生の状況を把握すると共に担任とのコミュニケーションを図り、連携して学生指導を行っている。
- ・海外研修の参加者は年々増加、現地の子供たちとの交流や園訪問等保育関係内容が充実している。  
平成 28 年度は1月 10 日～1月 16 日の 5 泊 7 日(アメリカロサンゼルス)
- ・防災対策は、建物全体のものとして「消防計画」等に基づいて、防災体制の整備、備蓄品の補充、基本的な体制を十分に整備している。
- ・防火管理者、施設管理責任者等の予防担当者を適切に配置し、必要に応じてその任命を再確認している。消防設備点検により指摘のあった箇所は速やかに改善を行っている。非常時の動きの確認等、HR 等を通して担任から伝達・指導している。
- ・3号館新校舎完成(H29 年度 4 月)

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・防災訓練に関しては施設管理責任者及び防火管理者も交えて経路確認・設備確認、生徒への避難経路など周知し体制は取れているが抜き打ちで防災訓練実施などのほうがより現実に即した事項であり、有事の危機感も醸成出来るため今後実施に向けて検討していく。



## (7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	自己評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

## ① 課題

- ・教務(教育成果)と広報(募集活動)の連動を意識した募集活動

## ② 今後の改善方策

- ・教育成果を伝えられる魅力的な広報活動を適正に行う。

## ③ 特記事項

- ・地域に設置されている広報室との連携を強化し、ニーズに合った情報の提供ができるよう取り組んでいる。
- ・中学生の学校見学や、高校1・2年生向けの広報活動において、職業理解を深め、保育者を目指してもらえることも意識している。
- ・学納金及び奨学金制度、学費減免制度については、社会情勢を踏まえて毎年、検討を重ねている。学納金の設定については妥当なものであると考えている。学納金等徴収する金額はすべて募集要項に明記している。

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・地域連携も含めての日常教務と土日の募集活動をしっかりと連動して、信頼性のある募集活動を行って欲しい。

## (8). 財務

【評価項目】	自己評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	3

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

## ① 課題

## 【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要がある。

## 【予算・収支計画】

なし

## 【会計監査】

なし

## 【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

## ② 今後の改善方法

## 【中期計画】

今年度に新中期計画を策定する予定である。

## 【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

## ③ 特記事項

なし

## 【委員コメント】

・特になし

## (9). 法令等の遵守

【評価項目】	自己評価
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

## ① 課題

- ・更なる法令遵守の推進

## ② 今後の改善方策

- ・会議や掲示等を通じて、全ての職員が法令遵守に対する啓蒙を継続的に図れるよう働きかける

## ③ 特記事項

- ・本校は、専門学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準、また、法令等の指定学科にあつてはその指定に関わる基準等を遵守し、適正な運営をしている。本校は、教育基本法、学校教育法、専修学校設置基準を基本に、関係する諸法令を遵守している。寄附行為、学則等を監督官庁に届出て認可を得ている。
- ・在学生に対しては、初回の HR において、「学生便覧」を配布し、学修に関する諸手続、学生生活、喫煙等について、法令遵守の視点から周知している。また、在学生に対しては、HR や授業にて、ネット利用の注意点を継続的に伝えている。
- ・コンプライアンス DVD を視聴(グループワークの実施)。
- ・自己点検・自己評価に関しては文部科学省ガイドラインに従った情報公開を実施する予定。
- ・自己点検・自己評価の材料である「授業アンケート」は、学校平均と共に全教員へフィードバックしている。
- ・学校平均、三幸学園全体の平均に関しては全教員へ公表し振り返りを行っている。
- ・「卒業生アンケート」に関しても同様、三幸学園全体の平均と本校の結果を、年度初めの全体会議で公表し教員全体での振り返りを行うことで、次年度へ活かす材料としている。
- ・個人情報誓約書のフォーマットのリニューアル(H29年度より改善)

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・個人情報の管理は保育現場でも求められるので、専門学校でも確実に実施していく。

## (10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	自己評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

## ① 課題

- ・積極的な公開講座、地学・教育連携の向上

## ② 今後の改善方策

- ・ボランティア活動の積極的な斡旋／ボランティア先との関係構築
- ・子育て支援の強化(地域開放)
- ・職業訓練への受け入れ設定
- ・保育発表会(保育科)を文京区内のホールで実施することで文京区内の子育て支援に貢献

## ③ 特記事項

- ・クールビズ、ウォームビズに取り組んでいる。
- ・使用していない教室、廊下の電気は細目に消すことを徹底することを学生、教職員に協力を要請し、電力使用量の節減のために取り組んでおり、使用量報告も行っている。
- ・コース選択学生による「親子教室」を開催している(例:親子クッキング・親子体操・リトミック等)。
- ・学内保育発表会を実施(H28年度4園来校 H27年度5園来校)。

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・地域や社会に根差した学校であり、かつ開かれた学校であるという事は今後より一層重要度を増していくと考えられるため常に改善点も把握しつつよりよい連携を目指して行って頂きたい。